

Nagasaki University

環境科学部の研究室

## 自然資源管理論 研究室

# 人間と自然資源の関係に着目 圧力をかけない共生の在り方を問う

OTA Lab.



インドネシアやマレーシア、台湾など海外の大学とのネットワークを活かした、グローバルな共修活動も視野に入れています。



大田 真彦 准教授

森林伐採や宅地造成、あるいは発展途上国のプランテーション開発など、人間活動が圧力になることによって、自然資源は消失したり劣化したり変化します。どのようにすれば圧力をかけることなく共生できるのか、様々な視点から人間と自然資源の関係について考えます。

私の専門分野は森林政策学、特に熱帯アジアおよび日本の森林・自然資源ガバナンスです。皆さんの興味関心や疑問点を引き出しながら、卒論まで“伴走”します。実際、ゼミ生が取り組んでいる研究テーマはトレイルランニング、森林ボランティア、農泊などと幅広く、自

然資源の管理や活用に関連した政策や事業を通して、生のデータを取得していきます。また、長崎という地域のみで完結するのではなく、ローカルとグローバルを、あるいは世界各地のローカルをつなぐ活動も目指しています。

まずは現場に行き、実際に見たり話を聞いたりすることが大切です。他者との出会いを通して自分の今までの常識や前提が覆されたその先に、新しい知見を得られるかもしれません。このような経験こそが有意義な学びとなり、自分自身の変化や成長にもつながるでしょう。



### フィールドワークの体験から 世界観が変わる

大学院時代にインドネシアへ渡り、プランテーションが地域社会に及ぼす影響に関して調査を行いました。日本で見ている世界が絶対ではない、そして新たな世界を知ることによって自分の物の見方が変わるという感覚を得たのもこの頃です。皆さんが現地調査を行う際にも、私自身の経験を踏まえながらサポートします。



### 生のデータにこそ 予想していない発見がある

研究テーマは景観や生態系などを含む、自然資源の管理や活用に関連した政策や事業を題材とします。グリーンツーリズム、エコツーリズム、環境教育なども可能なテーマです。聞き取り調査などを通して、生のデータを取得してほしいと思います。



### 異なる国・地域からも 学びや気づきを得る

2022年12月、さくらサイエンスプログラムを通じて来日した海外の学生・教員ら6名を当研究室で受け入れ、長崎県内の過疎地域での国際共同フィールドワークを行いました。今後もオンラインツールや交流プログラムを通じて、海外の学生と学習の機会を設けたいと思います。



インドネシアにて現地調査を行った時の様子。

おおた まさひこ  
2003年3月立命館大学文学部卒業。  
2007年3月筑波大学院修士課程修了。この間、インドネシアのカリマンタン島で先住民ダヤク人の生業変化の調査に取り組む。2012年7月筑波大学大学院博士後期課程修了。この間、約2年間インドに滞在し、国有林の政府-住民共同管理について調査を行う。在インドネシア日本国大使館、ASEAN事務局、九州工業大学准教授を経て、2022年4月より現職。